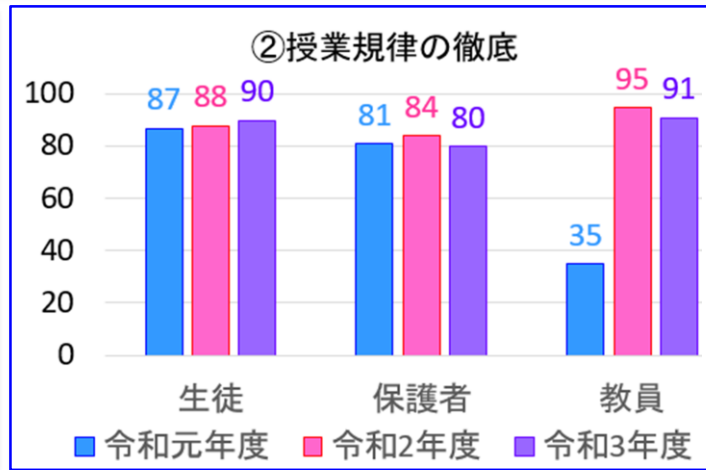
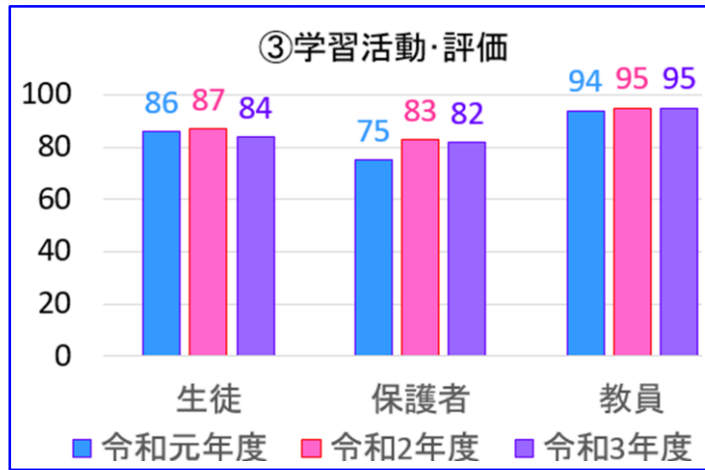


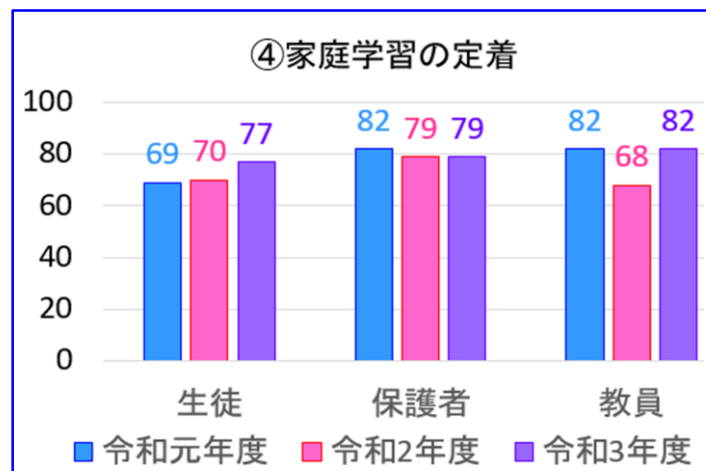
【分析】  
教員と生徒の意識の差が令和元年度から+6ポイント,-1ポイント,+16ポイントと広がっている。教員が生徒を適切に見取れているのか課題がある。



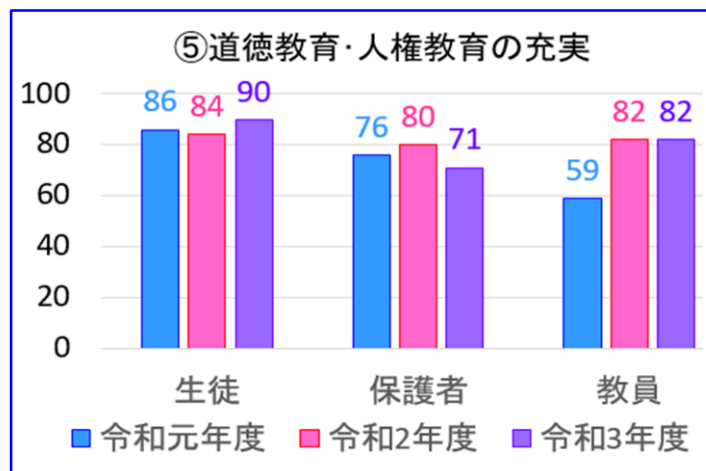
【分析】  
生徒は経年で授業規律の意識が高まり、学習への意識が高まっている。教員は学年団による生徒の実態を適切にとらえ、継続して育成する必要がある。



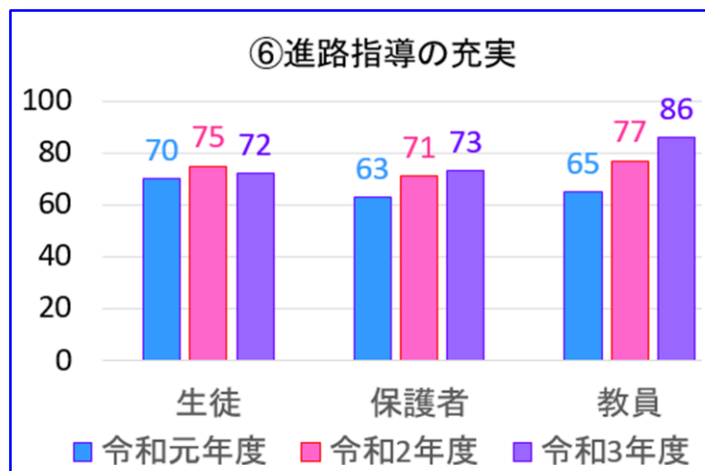
【分析】  
学校から生徒や保護者へ4(5)観点から3観点への移行を説明したことが、概ね理解されたと思われる。



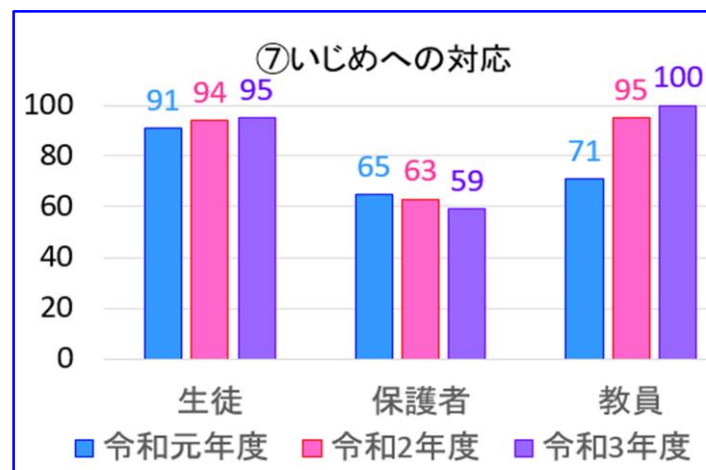
【分析】  
生徒の取り組みが経年で向上している。学校でも家庭学習記録シートの取り組みに力を入れていることが功を奏していると思われる。



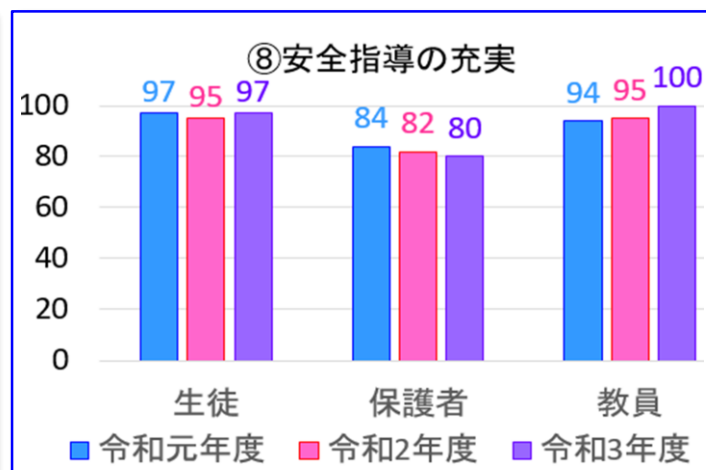
【分析】  
いじめ問題や友人との関わりなどについて、計画的に授業を実践してきたことの成果であると思われる。



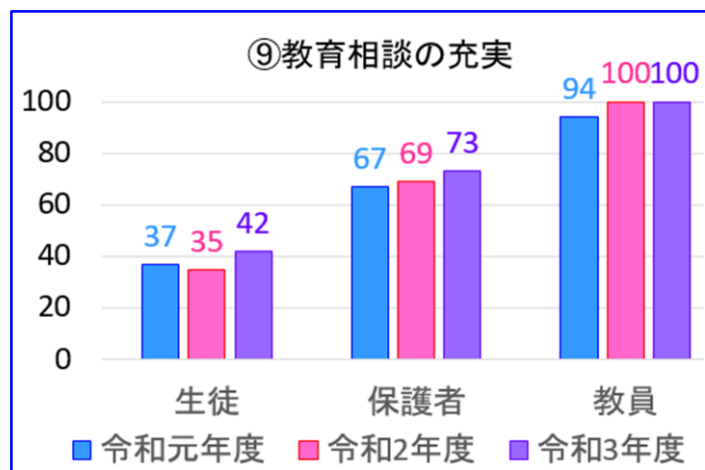
【分析】  
新型コロナウイルス感染症によりキャリア教育が計画通りに実践できていないことが生徒へ影響していると考えられる。



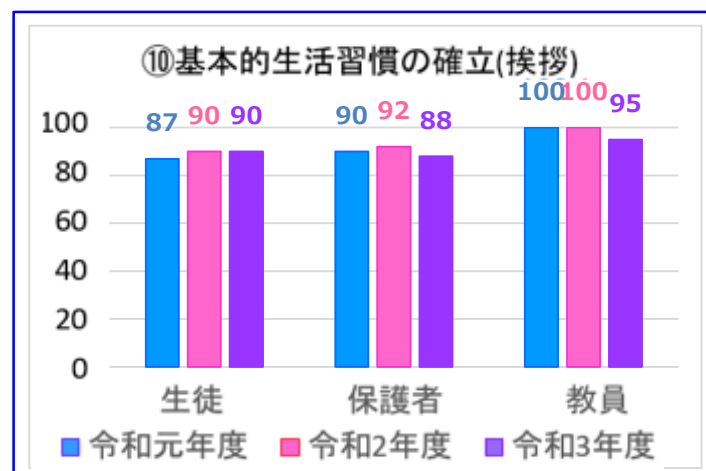
【分析】  
いじめ問題については各学年で繰り返し指導し、未然防止に努めてきたことが生徒に理解されていると思われる。



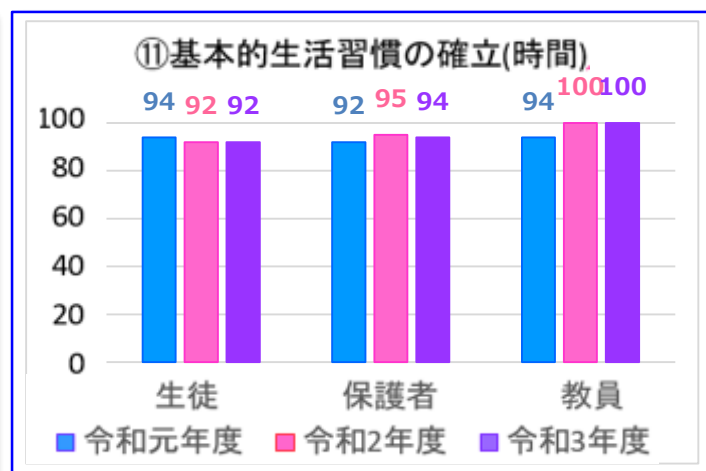
【分析】  
年間指導計画通りに滞りなく全校指導できている。特に、火災や地震等による校舎内からの非難訓練については、生徒へ避難の大切さが習得できている。



【分析】  
生徒の肯定的な回答割合を50%とすることを目指している中、目標値に近づいている。今後ともスクール・カウンセラーへの相談体制を整えていく。

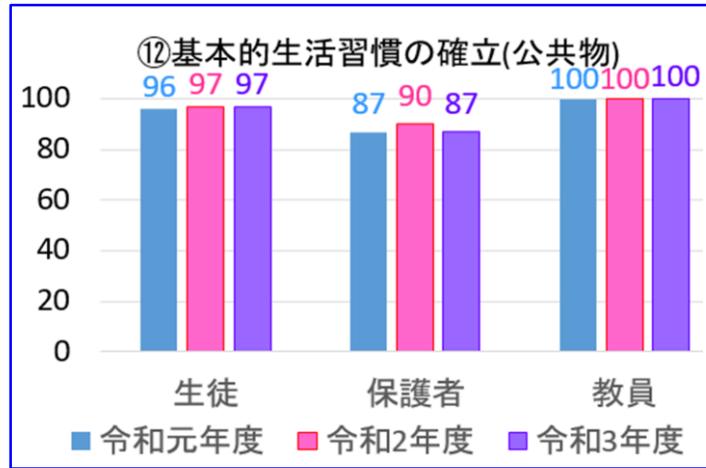


【分析】  
挨拶の奨励を教員が率先して実践しているが、保護者からの肯定的な回答が低下しているため、要因を精査していく。

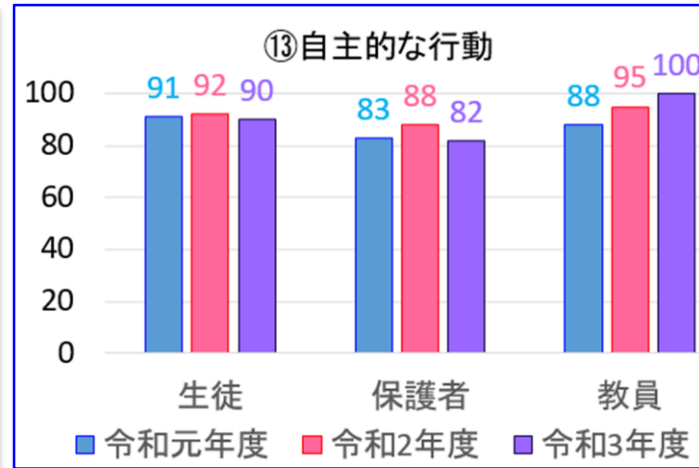


【分析】  
経年で安定している。学校では時間を守ることは厳しくも丁寧に指導しているので、今後も継続する。

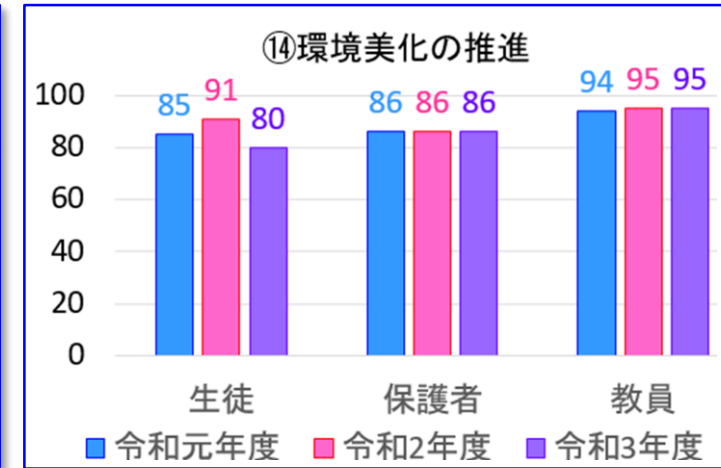
【グラフの見方】  
●単位  
百分率(%)  
●グラフ上部の数値ラベル  
肯定的な回答(A層とB層)の合計値  
A層:「とてもそう思う」  
B層:「どちらかといえばそう思う」  
C層:「どちらかといえばそう思わない」  
D層:「そう思わない」



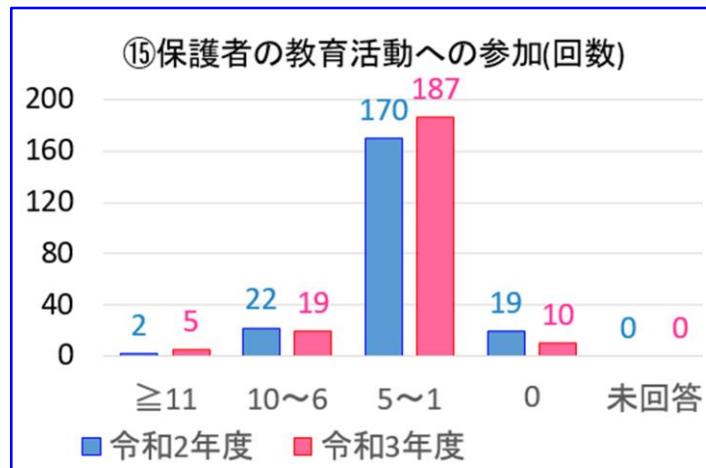
【分析】  
公共物の破損はないので今後も指導を継続する。但し、創立40周年を迎え、施設や教育機器の老朽化が散見されるので、事故が発生しないよう生徒へ注意喚起する。



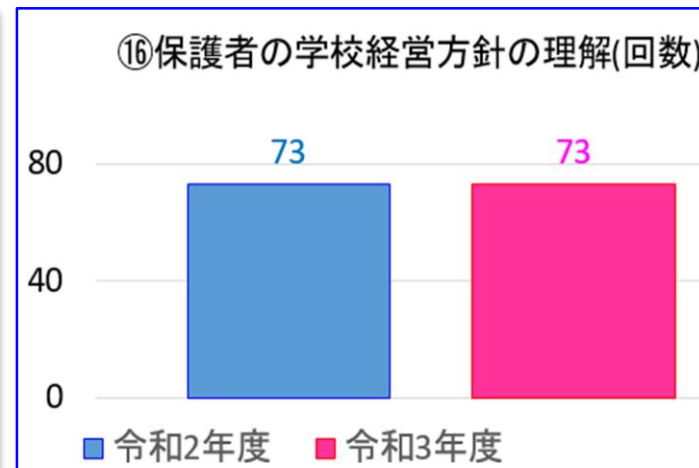
【分析】  
生徒は委員会活動や学校行事、係活動に主体的に取り組んでいる。



【分析】  
ピカピカウィークや清掃ボランティアの活動を通して、学習環境をきれいに保つ意識が醸成されていると考える。



【分析】  
新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、保護者へ保護者会や学校行事への参加の自粛を依頼していることが影響している。



【分析】  
例年と同等になったので、電子メールによる配信等を今後とも継続していく。